

榎本 了詩集

日本現代詩人叢書 第51集

榎本 了詩集

日本現代詩人叢書 第51集

昭和57年 6 月 1 日発行

定価 1800円

送料 300円

著 者 榎 本 了

発行者 萩 原 勉 夫

発行所 (株) 芸 風 書 院

東京都文京区本郷 1-15-4
〒 113 文京尚学ビル

電 話 03 (814) 9591 (代)

振替 東京 0-4 7 8 4 1

印刷 (株) 上野印刷所

表紙デザイン 倉持 正

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

榎本 了詩集

日本現代詩人叢書 第51集

日本現代詩人叢書 第51集

榎 本 了 詩 集

芸 風 書 院

目次

日本の夜	8
K	
子のこと	
だるまの歌	12
蘆花恒春園にて	14
新宿御苑にて	16
禅林寺にて	20
太郎と花子の歌	22
昨日の思い出	26
武蔵野にて	28
仙覚律師政所跡	30
僕の八月九日	34
今日もまた	36
駅前旅館にて	38
T	
子のこと	
春・三月の伊豆・湯ヶ島	40
夏の日に妙の浦で人魚を見た	42
雪国にて	44
岩船寺	46

浄瑠璃寺	47
西大寺	48
祇園	50
雪国幻想	52
秋篠寺	54
赤膚焼	55
室生寺	56
神護寺	58
光悦寺	60
靈鑑寺	62
大原の里	64
浄瑠璃寺回想	66
瑞泉寺にて	67
愛について	68
T子へ	70
晩年	74
T子の四季	76
K・Kのこと	82
ゆめ うつつ まぼろし	86
K・Kのこと	

詩の話

あとがき

著者略歴

96 94 90

榎本了詩集

日本の夜

時は――

戦争が終って平和が来たと言う

宇宙の一点 地球の一要素なる日本の夜は

二月の寒き敗北に星は無数と月は半分引かかってありぬ

超観念論の若く醜き無名作家は

青白き片月仰ぎて青春を歎息し涙ほろほろとこぼしたり

白わしろい粉色濃き真紅の腰巻こぼれる黒い瞳の若き芸者は

人影なき道端にくるり偉大なる尻をまくりしゃがみこみぬ……

白く凝固せしかの道端なる大地は

美香の小便をすすりし各所を黒々と丸く大きく描きだしたり

ああ 日本の夜よ

もうちょっとで結構だ

現実と夢とをカクテルにしてくれ――

（一九四六年九月「文芸星座」創刊号）

K 子 の こ と

だるまの歌

赤い達磨よ

何処へ行ったよ

もう 帰ってこない想い出かよ

黄色い達磨はよ

しばらく おもちゃ箱の片隅で

静かにねむっていたけれどよ

無残にも肉を破られてよ

裏の畑はたけのごみ溜に捨てられてよ

白い煙となって厳寒の上空に消えて行ったよ

赤い達磨よ

もう 帰ってこない想い出かよ

(一九五二年二月「祝祭」一〇号)

蘆花恒春園にて

夏です

暗い繁みの中に

比翼塚があります

微風が時折訪れ

陽の光を虹とふりまきます

土饅頭の苔がきらきら輝きます

熊笹をわけ

光の広場への小径で

カチカチと齒をならしました

日本のチルチル・ミチル

青い鳥は何処にいたのでしょ

(一九五四・一〇・一四)